



## 人生の転機 Turning point



日総ビルディング社長  
**大西 紀男**  
 Osamu Kuroki

1975年、父が始めた倉庫事業を引き継ぎ、社長に就任しました。3人という小所帯でのスタートでしたが、夢に向かって邁進しました。

当時、リコーの神奈川商品センターを手掛けており「同社グループのバックヤード部門を統合し、ビジネスをより活性化させる環境を提供したい」と、地主の方にリコーグループ向けの倉庫、軽修理工場、営業所、研修室などの諸施設を建設していただき、一括借り上げて、リコーグループ各社に賃貸する事業をスタートしました。

70年代はセミオーダーメイドビルも、ビルの壁面に社章掲出

を許可するビルオーナーも皆無に等しく、お客様のニーズに応えたオーダーメイドビルとして、高い評価を得ることができました。

82年には「倉庫だけでなく、オフィスや住宅、さらには研究開発施設も提供できるような会社」を目指し、社名を「日本総合建物」に改めました。

土地を買い、建物を建てて転売する。売り切り型。ビジネスを手掛ける不動産会社が多い中、当社は、竣工後も建物を保有し、運営を続ける経営を進め、街そのものの価値を高めることに力を入れました。その結果、横浜市から「彫刻通り」と命名されるほど、魅力あるオフィス街をつくることができました。

また「スペース+サービス」をコンセプトに、横浜から東京、そして海外へも進出し、サンフランシスコの中心部ノブビルでリッツ・カールトン サンフランシスコを建設オープンさせ、同ホテルは、その後、リッツカールトンの旗艦ホテルに位置付けられました。

事業が順風満帆の中、バブルが崩壊。多額の借金を抱え、銀行支援を受けることになりました。しかし「10年頑張れば、次の道が拓けるのではないかと、サプリース事業を新会社として切り離すことを決断。ビルオーナーのサンブレン産の小林会長にご相談したところ、「会社整理をしつかりできたら、君を一人前の経営者として認める。後継者として会社を譲ってあげよう」と言ってくれました。

98年、新たに「日総ビルディング」を設立。過去の経験を生かし、今は安定経営を守りながら新しい提案として、知的生産性を高める「エキスパートオフィス」を虎

### 創業、成長と挫折を経ての第二の創業



1980年代後半、リッツ・カールトンホテルカンパニーとの運営委託契約調印式。当時のリッツ・カールトンのオーナーCEOのビル・ジョンソン氏らと記念撮影。前列右から3人目が大西さん。(写真左)、日総ビルディングが手掛けたリッツ・カールトンの外観。(写真右)

ノ門や新横浜で展開。渋谷でも2014年6月に竣工予定です。また海外事業に再挑戦すべく、13年よりアメリカへの進出を計画しています。

周りの方々の温かいご支援とご協力で、再起を図ることができました。改めて皆様への感謝と謙虚な気持ちで、社会に貢献できる会社に育てていきます。